
第20回 川崎国際エコビジネスフォーラム

川崎信用金庫が地元と歩む中小企業支援



自己紹介



川崎信用金庫お客さまサポート部
部長 中村 浩二

1971年生まれ
横浜市港北区出身

1994年 4月	中野島支店
1998年 4月	吉田橋支店
2002年 6月	新城支店
2004年 6月	融資部
2007年 6月	小田支店
2009年 11月	南太田支店
2011年 6月	登戸支店
2013年 4月	新羽支店
2015年 8月	総務部
2015年 10月	業務部
2018年 4月	小田支店
2020年 10月	お客さまサポート部

川崎信用金庫について

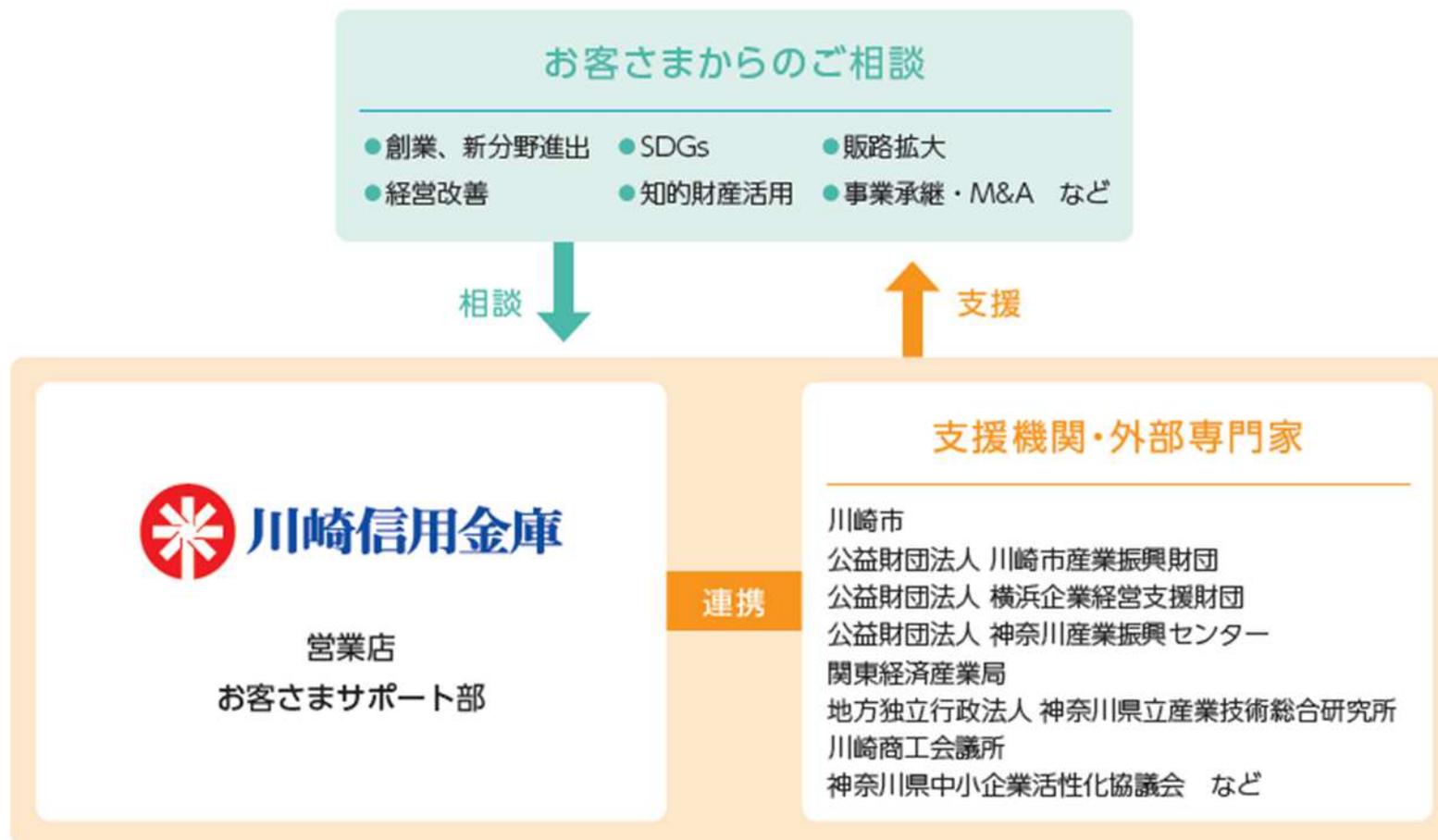


名称	川崎信用金庫
創立	1923年7月18日
本店所在地	川崎市川崎区砂子2-11-1
店舗数	56店舗
店舗外ATM	39カ所
役職員数	1,221名
預金積金	23,036億円
貸出金	13,725億円

2023年3月31日現在



川崎信用金庫の支援体制について

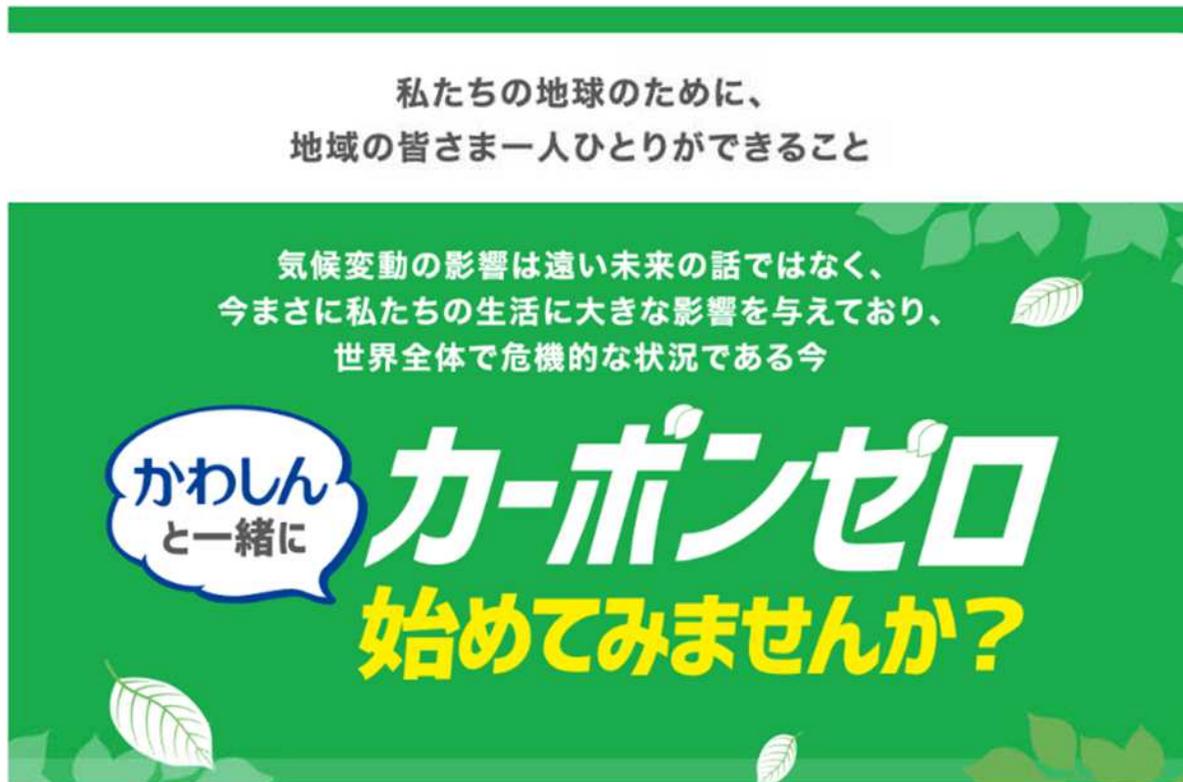


中小企業へのSDGs浸透までのステップ°



脱炭素への普及啓発について

カーボンゼロ始めてみませんか？



地域のお客さまへSDGsやカーボンゼロへ興味を持っていただくために、店頭POPや動画を作成し、普及啓発に努めました。

中小企業へのSDGs浸透までのステップ°



かわさきSDGsプラットフォーム



中小企業へのSDGs浸透までのステップ°



脱炭素関連の金融商品について

預金商品



かわしんカーボンゼロ融資商品と共に環境意識を高め、環境保全に向けた地域の取組みへの支援を行うため、伝票レス（ペーパーレス）で作成いただけるATM限定の定期預金を取り扱っています。本商品の契約金額に応じた寄付金を当金庫が拠出し、緑化基金等へ寄付します。

脱炭素関連の金融商品について

融資商品

かわしんカーボンゼロチャレンジシリーズ



アシスト2050



アパートローン



住宅ローン



カーライフローン



地域の脱炭素社会の実現に向けた普及啓発を積極的に進めるため、脱炭素や環境配慮に向けた取組みを行う地元事業者・個人の方を対象とした事業性融資商品、アパートローン、住宅ローン、カーライフローンを取り扱っています。

脱炭素関連の金融商品について

融資商品

かわしんカーボンゼロ・住宅ローン



かわしん
カーボンゼロ・住宅ローン

「エネルギー消費性能向上に資する設備」※1を設置するお客さまをかわしんは応援します！
～該当設備部分の金利0%に相当する利率を設定します～

対象設備費には下表のとおりそれぞれに段階を設け、対応する金額にて金利を算出します※2

対象設備費用の区分	金利
50万円超100万円以下	→ 採用金額100万円
100万円超200万円以下	→ 採用金額200万円
200万円超	→ 採用金額300万円

※優遇対象となる設備金額は50万円超、300万円以下の部分であり、50万円以下は対象外です。

「かわしんカーボンゼロ・住宅ローン」は、「エネルギー消費性能の向上に資する設備」導入に対してローン金利の優遇を行うことで、住宅購入、建築を検討する市民の省CO₂意識の向上を後押しすることを目指しています。

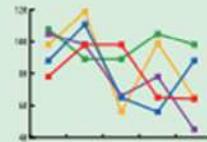
脱炭素関連の金融商品について

融資商品

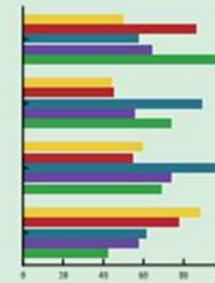
かわしんサンシャイン



太陽光パネルを導入し、CO₂排出量の可視化に取り組む事業者さまをサポート！



223,384	945,687	332,548
442,475	658,658	721,485
223,384	118,696	894,518
5,021	223,384	214,888
677,418	884,569	223,584
25,455	42,247	228,848

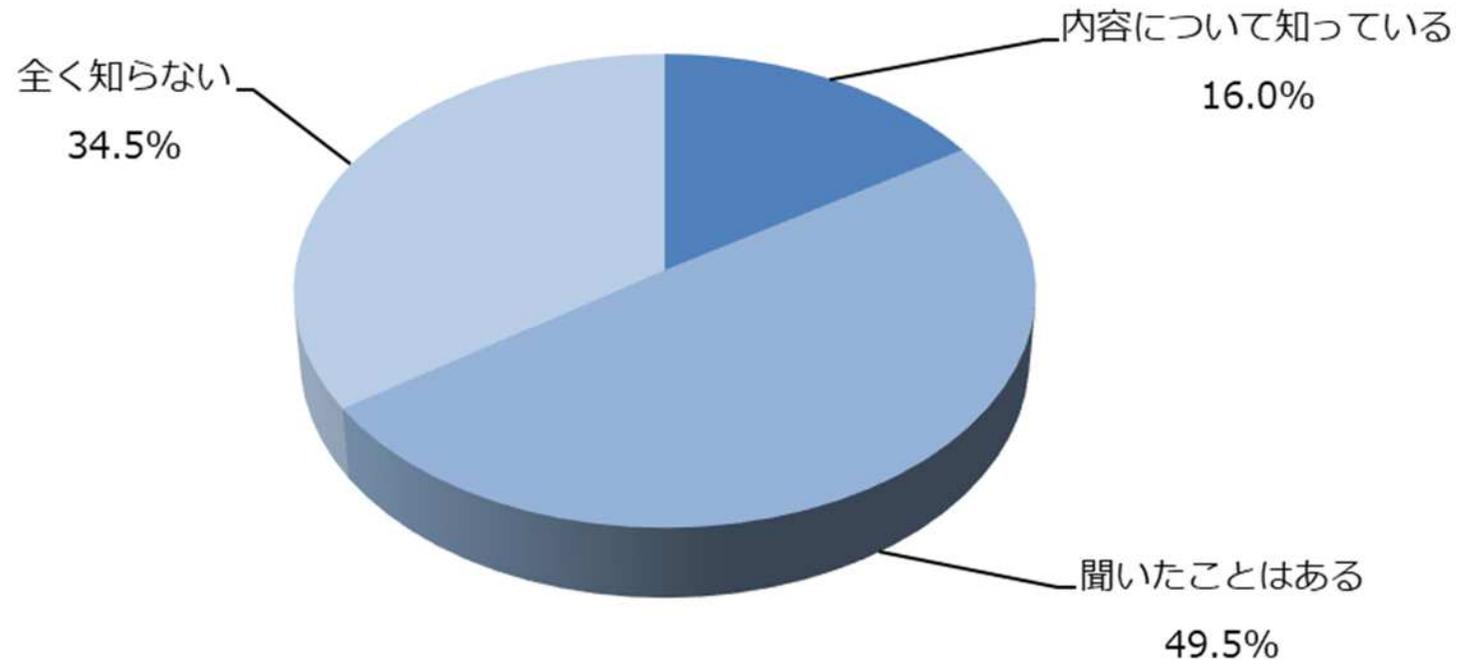


「かわしんサンシャイン」は、脱炭素社会の実現に向けた取組を行う事業者を支援するため、太陽光パネル設置とあわせてCO₂排出量の可視化に取り組むことで、1年後に当金庫所定の利率より0.200%優遇する新たな融資商品です。本商品を通じて、太陽光パネルの普及促進やCO₂排出量削減に向けた次のアクションへの働きかけを行っています。

中小企業へのSDGs浸透までのステップ°



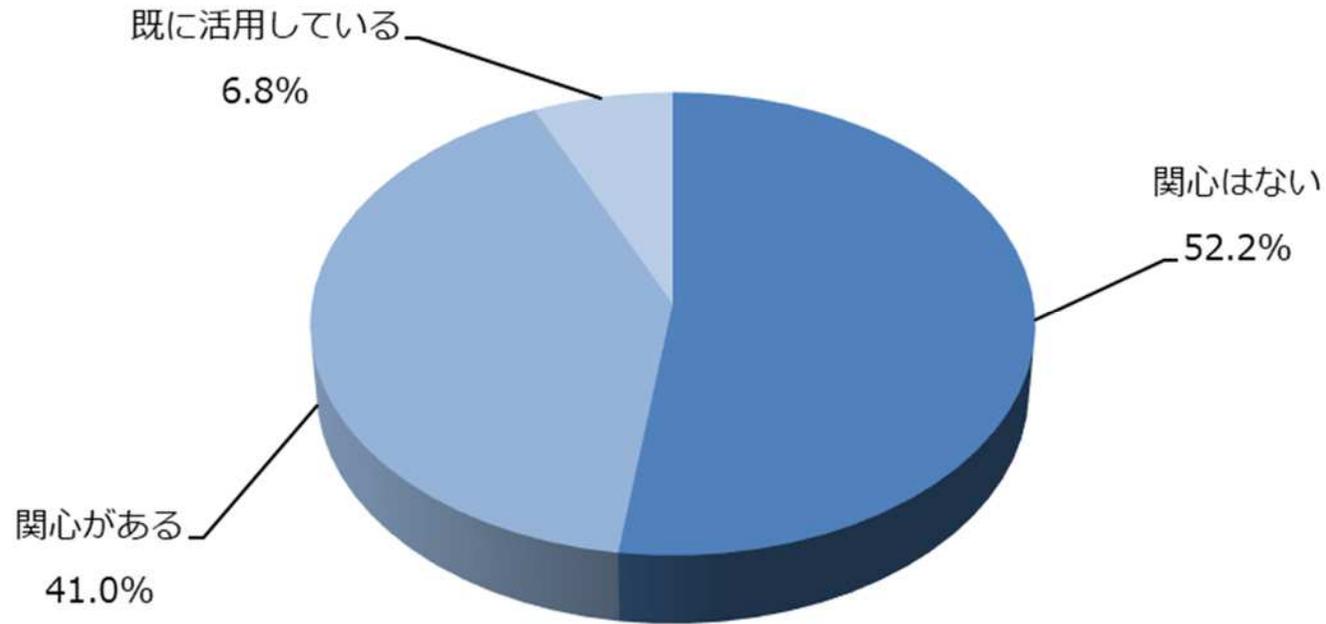
ESG投融資の認知度



出典：川崎信用金庫「中小企業動向調査2023年1～3月期」

ESG投融資の「内容について知っている」が16.0%、「聞いたことはある」が49.5%と7割弱の企業が認識していました。一方で、「全く知らない」が34.5%と約3割の企業で認知されていません。

ESG投融資への興味・活用意向



出典：川崎信用金庫「中小企業動向調査2023年1～3月期」

ESG投融資への興味・活用意向について「関心はない」が52.2%と約5割の企業で自社には必要ないと感じています。
一方で、「関心がある」が41.0%、「既に活用している」は6.8%にとどまりました。

終わりに



すべての企業は、社会から必要とされなければ生き残れません。ならば、「社会の必要」を網羅的に羅列しているSDGsを正確に理解し、今後の経営の道標とすることで、自社の経営戦略とすることができるのではないのでしょうか。



ご清聴、誠にありがとうございました